

研究課題	ビジネス社会で実践的に活動するために必要な広報力の育成とその活用
副題	～ I C T を活用した実践事例～
キーワード	タッチスクリーンディスプレイ ルーブリック I C T
学校/団体名	山口県立宇部商業高等学校
所在地	〒759-0207 山口県宇部市大字際波字岡の原220
ホームページ	<a href="http://www.ube-c.ysn21.jp/">http://www.ube-c.ysn21.jp/</a>

## 1. 研究の背景

本校は1学年商業科3クラスと総合情報科1クラスの専門高校である。昭和2年の発足以来、卒業生は一万三千名を超え、その活躍は地元の宇部市・山陽小野田市地域はもとより、全国各地、各分野にわたって活躍している。生徒は、「小さな学校から日本一」のかけ声のもと、部活動・資格取得などの目標に向かって活動している。特に、部活動では甲子園に春夏合わせて19回出場の硬式野球部や、インターハイや国体で優勝した男子バレーボール部などが有名である。また、昭和60年度から販売実習である「宇部商デパート」を実施しており、今年度で34回目を迎える。地元企業の協力のもと、二日間で四千人近くの来場者があり、地域と企業・学校を結ぶ最大の学校行事となっている。また、本校の進路は就職6割・進学4割で推移し、地元宇部市内をはじめ、近隣の地域に多くの生徒が就職する地域と密着した学校である。しかし、近年は人口減少の影響もあり中学生の志願倍率が低下している。そこで、平成27年に「情報利用技術科」から「総合情報科」へ学科改編を行い、パソコン以外にも、ビジネスの分野で活用が進んできたタブレット端末機の利用方法を学びながらより実践的な活動を行ってきた。しかし、地域や中学生からは宇部商業高校や総合情報科の取組について、「知らない」、「今までの学科と何が違うか分からない」との声も聞こえている。また、入学してくる生徒においても、自分の意見を正しく伝えられなかったり、他者の意見を受けとめ取り入れることが苦手だったりする傾向がみられる実態があった。

## 2. 研究の目的

本研究では、学校の活性化のためにも、宇部商業高校のPRと、魅力ある学校づくりの柱として総合情報科の取組を認知してもらう広報活動を中心に進めていくことにした。本校の生徒は、卒業後は6割が就職を希望するため、企業で必要とされる人材としても成長できるように、ICT機器の活用を通して、企業の発展に貢献できるだけの実践力を育成することが求められている。具体的には、コミュニケーション能力を育成し、プレゼンテーション能力や広報力を身に付けさせる取組を進める。

本研究では、ICT機器の活用を進め、学校行事「宇部商デパート」を作品発表の場として、総合情報科の「電子商取引」や、課題研究での「宇部商デパート作品製作班」の取組、そして、本年度から、生徒が自ら中学校で出前授業を行うことを目的として設定された課題研究「中学校出前授業班」での取組で、タッチスクリーンディスプレイを活用した学習活動の有用性を検証していく。

### 3. 研究の経過

時期	活動	具体的な内容	評価
4月	○ソフトの使い方 ○商業デザインについて ○計画・立案	Illustrator の操作方法の学習（電子商） 広報の役割・効果について学習（作品） 出前授業の授業展開の計画・立案（出前）	授業態度 レポート 授業態度
5月	○企業ロゴについて ○うちわデザイン作成 ○プレゼン作成	企業ロゴについて学習（電子商） 体験入学用うちわのデザイン作成（作品） 出前授業のスライド・原稿の作成（出前）	授業態度 レポート 成果物
6月	○店舗ロゴについて ○うちわデザイン作成 ○出前授業見学	宇部商デパートの各店舗のロゴ作成（電子商） 体験入学用うちわのデザイン作成（作品） 教員が実施する授業の見学・補佐（出前）	授業態度 成果物 報告書
7月	○店舗ロゴについて ○ロゴについて ○班内発表会	宇部商デパートの各店舗のロゴ作成（電子商） 宇部商デパートのロゴ作成（作品） 班内で発表会を行い、相互評価（出前）	レポート 発表態度 発表内容
8月	○体験入学	体験入学用うちわの配布（作品）	成果物
9月	○大看板について ○チラシ広告について ○プレゼン作成	宇部商デパートの大看板作成（電子商） 宇部商デパートのチラシ広告作成（作品） 出前授業のスライド・原稿の作成（出前）	授業態度 成果物
10月	○大看板について ○パンフレットについて ○出前授業実施	宇部商デパートの大看板作成（電子商） 宇部商デパートのパンフレット作成（作品） 中学校にて授業を実施（出前）	成果物 発表態度 発表内容
11月	○動画CMについて ○パンフレットについて ○出前授業実施	宇部商デパート各店舗の動画CM作成（電子商） 宇部商デパートのパンフレット作成（作品） 中学校にて授業を実施（出前）	成果物 発表態度 発表内容
12月	○宇部商デパート ○発表会用プレゼン作成	宇部商デパートで作品発表（電子商） 活動報告のスライド・原稿の作成（作品・出前）	レポート 成果物
1月	○Webについて ○課題研究発表会	宇部商デパートの各店舗のHP作成（電子商） 全校生徒対象にした発表会で活動報告（作品・出前）	成果物 発表態度 発表内容

電子商：電子商取引 作品：宇部商デパート作品制作班 出前：中学校出前授業班

### 4. 代表的な実践

#### (1) 電子商取引

総合情報科3年生を対象とした3単位の科目である。本校では、販売実習を行う学校行事「宇部商デパート」を、商業高校で学習した内容を実践的に行い、地域の方々や中学生に対して宇部商業高校の取組を発表する機会としてきた。そこで、総合情報科の生徒が各店舗の「大看板」、「動画CM」を実際に作成し、来場された地域の方々や中学生にPRした。そして、今年度の取組としては、学校HPに、生徒が宇部商デパートの各店舗の紹介のページを作成して、学習した内容や知識・技術のPRを試みた。

#### (2) 課題研究

3年生全クラスを対象とした2単位の科目である。生徒は、「調査・研究」・「作品制作」・「産業現場における実習」・「職業資格の取得」の4分野から、生徒自身の興味・関心や将来の進路などによって選び活動することになる。今年度は、「宇部商デパート作品制作班」と、新たに「中学校出前授業班」と設定し生徒を募った。

## 5. 研究の成果

### (1) ルーブリック評価とタッチスクリーンディスプレイの活用

総合情報科の生徒を対象にルーブリック評価を行った。助成金贈呈式のスタートアップセミナーで専門委員の先生方から評価方法について助言を頂き、令和元年6月と令和2年1月に実施し比較をすることにした。コミュニケーション能力・プレゼンテーション力の育成の観点から、聞く（傾聴力・表現力・相互理解力）・話す（情報収集力・要約力・想像力）・発表する（発表表現力）の3つの能力を2つの項目に分け、それぞれ4段階で生徒に自己評価させた。

年 組 番( )		能力	項目・段階	4	3	2	1
傾聴力、表現力、相互理解力	他人の意見について	尊重して聞き、十分に理解できた上で、様々な視点から考えることができる。	尊重して聞き、意図や気持ちなどまで理解できる	尊重して聞き、言いたいことを理解できる	尊重していないか鶴呑みしており、理解できていない		
	自分の意見	様々な説明の方法や手段を駆使し、わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる	わかりやすく伝え、意見の異なる相手との相互理解を得ることができる	伝えることができるが、相互理解には至っていない	伝えていないか、伝わっていない		
情報収集力、要約力、想像力	グループの中での意見について	自分なりにまとめ、グループ全体を今までになかった新しいアイデアと発想へつなげることができる	自分なりにまとめ、要点を正確に述べるることができる	自分なりに適度にまとめることができる	自分なりにまとめていない		
	グループでの討論や議論における自分なりの意見や主張	適切で創造的な手順・手段を用いてわかりやすく説明し、相手を十分に納得させることができる	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明し、相手を納得させることができる	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明できる	適切な手順・手段を用いてわかりやすく説明していない		
発表表現力	資料・スライドについて	相手に理解させようと努力して、オリジナリティあるものを適切に用意している	相手に理解させようと努力して適切に用意している	適切に用意している	用意しているが不十分、もしくは用意していない		
	発表について	堂々と聴衆を見ながら、声量も十分に適切なスピードで発表できる。	視線や声量、話すスピードとも一定のレベルに達している	視線・声量・話すスピードを改善する必要がある	発表態度全体を大きく改善する必要がある		

図1 ルーブリック評価項目

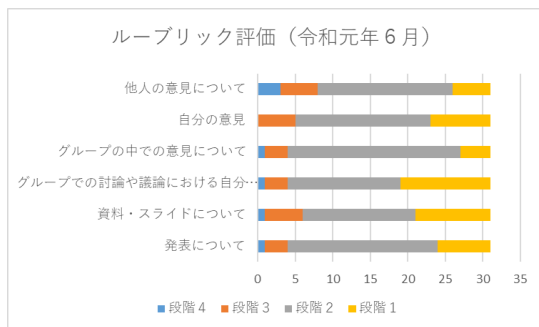


図2 令和元年6月評価

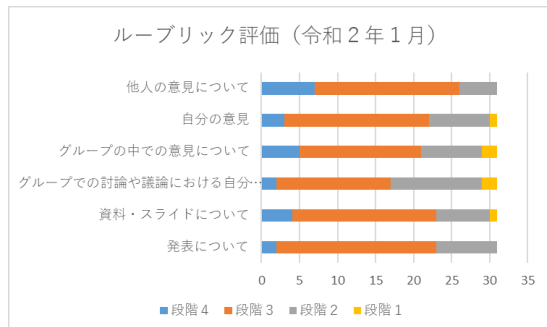


図3 令和2年1月評価

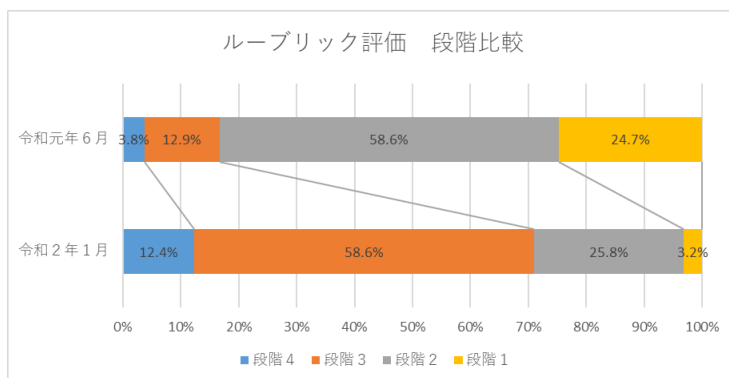


図4 1回目(令和元年6月)と2回目(令和2年1月)比較

ループリック評価を実施して、令和元年6月の時点での自己評価が全体的に低いことは驚きであった。しかし、さらに驚いたことは、授業終了時の令和2年1月に実施した評価で、各項目の段階4・段階3の評価をつけている生徒が非常に増えていることだった。段階4・段階3の割合が令和元年6月では16.7%だったのに対し、令和2年1月では71%と大幅に増加している。(図1、2、3、4)

これは、助成金で今回購入したタッチスクリーンディスプレイを、「電子商取引」の授業で使用する教室に設置し、調べ学習や課題作品を作成するごとに映し出し、お互いの意見交換の活動を活発に実施したことが要因であると考えられる。総合情報科の生徒は、コミュニケーション能力を身に付けさせるために、今までもプロジェクターとスクリーンを使って、調べ学習の内容や作品をプレゼンテーションする機会などを意識して設けてきた。しかし、発表者と聞き手との距離が広くなり、プレゼンテーションも一方的になりがちであった。今回のタッチスクリーンディスプレイでは、みんなの前でディスプレイ上に実際に書き込みしながら発表できることと、意見を直接書き込めることで情報を共有し、お互いの理解力が高まったと推測される。生徒の感想からも、タッチスクリーンディスプレイを使用した有用性が伺える。(図5)

生徒の感想 (抜粋)

- ・具体的に指示されているポイントが分かりやすくなった。
- ・大きな画面に文字や図形が書き込めるので修正点が分かりやすかった。
- ・直接意見を聞けるのが良かった。
- ・みんなの意見をすぐ書き込めるのが良かった。
- ・色々気づいた点をすぐ書き込めることができて良かった。
- ・みんなに伝わりやすいと思った。
- ・周りの人の意見を知る機会ができて良かった。
- ・最新の感じがして良かった。



図5 タッチスクリーンディスプレイを活用して意見交換をしている場面

(2) 課題研究でのタッチスクリーンディスプレイの活用

ア 宇部商デパート作品制作班

商業科の生徒5名が所属し、教員1名が指導を担当した。主な取組は、中学生体験入学で配布するうちのデザインと、宇部商デパートのロゴ・チラシ広告・パンフレット作成である。うちのデザインは、一日体験入学で中学生がパソコン実習を体験する講座があり、中

学生がデザインするうちの裏面のデザインとなる。家庭に持ち帰り、保護者や地域の方々と宇部商業について話し合うきっかけづくりや、友人との話題にもなることが期待できる重要なPRアイテムと考える。デザインについては、生徒から色々な意見が出た中から、体験入学の開催時期が8月ということで季節感を出し、爽やかな印象を与えるものを選び作成した。最初は、手書きのラフスケッチから案を出し合い、次に、グラフィックデザインソフトであるillustratorを使い、トレースした下絵からデザイン作成を始めた。商業科の生徒にとっては、始めて使うソフトだったため戸惑っていたが、しばらくすると手慣れた操作で作品づくりを行っていった。宇部商デパートのロゴ・チラシ広告・パンフレット作成については、まず、今年度のコンセプトに沿ったロゴデザインを考えた。その後、コンペを実施し今年度のデザイン原案を決めた。そして、会議を重ねて作品を完成させた。チラシ広告は地域の行事である「宇部まつり」で配布し、「宇部商デパート」の開催案内告知とともに、生徒の知識・技術のPRにもなった。



図6 うちのデザイン



図7 同時に書き込む場面



図8 チラシ広告

#### イ「中学校出前授業班」

本校では、昨年まで、教員が地域の中学校を対象にビジネスマナー等を説明する出前授業を実施していた。しかし、生徒の言葉で本校の魅力を伝えられないかと考え、今年度は生徒による中学校出前授業を行うことにした。生徒8名が所属し、教員2名が担当した。まず、生徒4名ずつの2グループに分け、それぞれのグループで授業展開を計画した。グループ分けは、あえてクラスや学科を分け「話し合い」を授業の基本とした。お互いのグループの活動・発表を見学し、自分たちのグループにフィードバックを行い、客観的な視点に立ち意見を述べ合える環境を作り、コミュニケーション能力を養った。教員が行っているビジネスマナー指導のスライド内容を学習し、より中学生が理解し易いようにスライド内容を考察し、発表する原稿を作成した。そして、教員が行う出前授業を見学したり、補佐したりしながら、実際の授業を体験した。作成したスライドや発表原稿で班内発表会を行い、それぞれのグループ間で相互評価や他教員からのアドバイスを頂き、改善を行ってきた。(図9)

本年度は、中学校3校で実施し、中学生の80%から「よく理解できた」と回答を受けた。校内での発表練習や、中学校へ出前授業を行った様子をiPadで撮影し、その都度、タッチスクリーンディスプレイで確認した。iPadでは画面が小さく、班員全員で確認するには難しかった。また、プロジェクター式電子黒板が導入されているが、光量が低く不鮮明であり、映像を映すには課題があった。しかし、ディスプレイ式は明るい教室でも画像が良く

見え、特に、出前授業中の自分たちのしぐさや表情まで確認することができて、中学生の前で発表する様子について振り返りながら改善するなど活用した。(図10、11)



図9 班内発表会



図10 中学校出前授業の様子



図11 反省会の様子

## 6. 今後の課題・展望

今後の課題は、タッチスクリーンディスプレイを活用する場面を増やし、有用性のデータを確かなものにするることである。今年度は、活用のしやすさから総合情報科3年生と課題研究の2班で研究を進めてきた。生徒からも「良かった」という肯定的な意見が多くでたこと、生徒自身もコミュニケーション能力やプレゼンテーション力が身に付いたと自己評価していることは一定の成果があったと考える。今後は、より多くの生徒が活用する場面を増やしたい。その為には、他学年や普通科目での利用を促すことが必要である。例えば、校内研修会を定期的実施したり、研究授業を実施して公開したりすることも重要だろう。まだ、ICT機器について苦手意識を持たれている先生方がいる。まず、より便利で活用しやすい環境を整え、率先して活用した授業を行うこと。それから、データを蓄積し検証しながら情報を共有し、協力して活用してくれる仲間を増やしていくことが望まれる。そして、学校の魅力を伝えていけるように更なる広報活動にも力を入れて挑戦していく。

## 7. おわりに

本校では、卒業後はすぐに就職する生徒が6割であり、社会に出てすぐに実戦力として活躍する人材づくりが望まれてきた。入社すれば、年齢の違う相手と意思の疎通を図り、チームとなって活躍していかなければならない。しかし、若者の多くは、意思疎通の基本であるコミュニケーション能力が低下してきたと言われている。原因は色々考えられるが、学校現場での対応の1つとして、生徒にしっかりと意見を交換する経験を積ませることが必要であると考え。そのためのかきかけづくりに取り組んでいきたい。今後も研究を進め、地域から求められる人材を育成し、中学生からも魅力ある学校と授業づくりを図り、学校の活性化に貢献していきたい。

## 8. 参考文献

- ・経済産業省「人生100年時代の社会人基礎力」

<https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html> (2019年5月10日参照)

- ・東北福祉大学「学士力関連コモンルールブック」

<https://www.tfu.ac.jp/students/rubric.html> (2019年6月10日参照)